

広報⊕
No.733
令和7年

いいたて3

www.vill.iitate.fukushima.jp

田植踊デビューの日





冬から春にかけて花を咲かせるクリスマスローズ。「冬の貴婦人」とも呼ばれます。

目次 CONTENTS

- 02 話題「福島県建築文化賞・復興賞」
- 04 特集1「3.11の飯舘村で」
- 08 特集2「飯舘村こども議会」
- 12 「教育長就任ごあいさつ」
- 13 学びの広場「豆まきとイチゴ狩り」
- 14 空から百景「春を待つ飯舘」
- 16 特集3「いいたて村芸能発表祭」
- 18 いいたて便り
- 20 話題のパレット
- 22 村からお知らせ
- 23 いいたてなりわいREPORT
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 村民広報委員コラム ほか
- 27 愛染故郷味／ひとのうごき
- 28 ほっとNEWS／お知らせ

📷 今月の表紙



「いいたて村芸能発表祭」で初舞台を踏んだ大谷琉希奈さん(小学3年生)と新川胡桃さん(中学2年生)。大先輩と一緒に「小宮の田植踊」を披露しました。P16の記事もご覧ください。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613までお知らせください。

「ひみつ基地どきどき」福島県建築文化賞・復興賞 子ども達の遊びが広がる仕掛けがいつぱいの秘密基地！

「ふかや風の子広場」の屋内運動施設「ひみつ基地どきどき」が、第40回福島県建築文化賞「復興賞」を受賞しました。多様な世代の帰還と交流を図るコンセプトや、何度も訪れたくなるようなさまざまな工夫が評価されての選出です。

「ひみつ基地どきどき」は、深谷復興拠点エリアに建設され、令和2年8月にオープンしました。子ども達に何度も遊びに来てほしくて、この建物には、つぶらな瞳のような丸窓、訪れる人をやさしく包み込むようにカーブを描いて広がる両翼の棟、鬼ごっこができる高床式の床下、室内に入れば木の温もりと開放感があるホール、こっそりのぞける隠れ小窓など、ひみつ基地としてどきどきの仕掛けが随所にちりばめられています。

コロナ禍もありましたが、多くのご家族に親しまれ、令和6年11月には来館者3万人を達成しています。



こども園の訪問(2月5日)



ひみつ基地どきどき
午前10時～午後4時(時間入れ替え制)
毎週水曜日定休 利用料は無料

🏆 福島県建築文化賞・復興賞 福島市で表彰式が行われました

福島県建築文化賞の表彰式は、2月5日に福島市の杉妻会館で行われました。

「ひみつ基地どきどき」は、天井が高くのびのびと遊ぶことができる木育広場をはじめ、木材をふんだんに使用した温かみのある内部空間の建築素材・構造なども高く評価されました。



左から株式会社佐川旭建築研究所の佐川旭代表取締役、株式会社邑建築事務所の矢吹大代表取締役、杉岡村長、関場建設株式会社の関場直隆代表取締役社長。



村職員が被害状況を見回り危険箇所には通行止めなどの対策を実施。



民家でも外壁の損傷や屋根瓦の落下などが相次ぎました。



地震によって屋根瓦が壊れた村役場。庁内書類などが散乱しました。

特集 1

3.11の飯舘村で

平成23年3月11日の東日本大震災から、間もなく14年が経とうとしています。震災対応や避難の経験を次の世代にどう伝えていくか、自然災害が頻発するようになり伝承の重要性が増している一方、時間の経過と共にその難しさもまたクローズアップされています。「3.11」を前に、4組の方に、発災時の体験と、現在に至る道のりをお聞きしました。振り返って知ること、伝え合うことの大切さを改めて感じさせられるエピソードです。



卒業式の日の大震災

株式会社テクノ芳賀の芳賀英幸さん(白石／右)と村の職員として働く高橋亮一さん(上飯樋)。

2人は震災の日、飯舘中学校を卒業した同級生で、今も親しく連絡を取り合っています。

芳賀さん「地震が起きた時は、卒業記念に友達と福島市に遊びに行っていて、店内が騒がしくなり急いで外に出ました。親の車で家に帰り、業務用の発電機を使って停電の夜を過ごしましたが、大人は大変だったと思いますが、自宅に帰れなくなった友達が1週間ほど泊まっていた、楽しい思い出も残っています。

白石地区は比較的早く停電が解消されましたが、暖を取るために炭を焚いたりもしました。近所の人が集まって一緒に過ごす日もありました。

福島市に避難して高校生活を送り、成人してから、父と姉が経営してきた会社を継いで、3年前に結婚しました。上飯樋に作業場を借り、熟練の従業員と共に、建築系の溶接の仕事をしています。出張も多い仕事ですが、現在は村内の仕事が多くなっています。村の景色が好きで、仕事で村内を通ると、景色と共に昔の思い出が蘇ってきます。

高橋さん「地震の時は自宅の居間にいました。天井のライトがぐらんぐらん揺れてコタツに隠れたら、ばあちゃんに「外さ出る」と言われて。地割れというものを初めて見ました。停電になり、夜はロウソク1本で過ごしました。

その後一次避難で1か月程、会津若松市で暮らしましたが、友達と一緒に地元の高校に通いた

かった。何とか福島市に避難先を見つけてもらい、進学しました。祖父母と分かれて暮らすようになり、飼っていた犬は県外の人に引き取ってもらいました。普通に高校に通うことができ、特に苦労を感じることもなく歩んできました。中学時代の友達とは今もよく会っています。村を離れた人の方が大変だったかも知れませんが、私は村が好きです。勤務先の復興拠点から、村を盛り上げていきたいと思っています。



3月11日は飯舘中学校の卒業式の日でした。この後、午後2時46分に大地震が発生しました。

牛農家の避難



佐藤照子さん(飯樋町)。現在は飯舘村社会福祉協議会の生活相談員として村民を支えています。

我が家は乳牛農家で、和牛も何頭か飼っていました。2人の息子はすでに県外で就職していて、娘は4人の子どもを育てながら村内で働き村営住宅で暮らしていました。牛の世話は、夫と義母と私の3人でやっていました。震災の日、近所の人に来ておしゃべりをしていて、大きな揺れが来ました。小学生の孫を学校に迎えに行くと、子ども達は校庭に出て、先生方がブルーシートで子ども達を囲んでくれていま

した。停電になり、その夜は1台の石油ストーブで、娘家族も一緒に過ごしました。ガスは来ていたのですが、ご飯は土鍋で炊きました。

原発事故の影響で、牛乳の出荷ができなくなりました。搾乳機を発電機につないで絞った乳を、捨てざるを得ない毎日が続き、飼料屋さんもエサを運ばなくなり、牛農家はどこも大変だったと思います。

計画的避難区域に指定され、牛の処分の話になりました。当時は補償があるかどうかとも分らないまま。部会で集まって話し合い、役員さんが東京へ陳情にも行きました。5月いっぱい乳牛の処分をして、お腹にこわい牛は二束三文で県内の農家に買ってもらい、和牛はせりに出しました。

こうして話していると当時の戸惑いや悔しさや辛かった気持ち、今も残っているのを感じます。まずは娘家族を、息子がいる千葉県に避難させることになって、皆の車からガソリンを集めて、米



5月11日にいちばん館で「計画的避難に伴う家畜の今後の方針に係る説明会」が開かれました。

を持たせて送り出しました。牛がいなくなり私達が避難したのは7月でした。夫は見守り隊に出て、私は知人に誘われ社会福祉協議会で働き始めました。私自身も飯舘の人と話したかったのが一歩を踏み出した理由です。

転々と避難をした娘家族は、子どもの入学を機に飯野町に戻り、今では孫達もすっかり大きくなりました。私は村の皆さんの力になれるよう、やりがいを持って仕事を続けたいと思っています。

飯舘村の被災体験を未来につなぐ

大地震に対応して避難者を受け入れたのに次いで原発事故による全村避難を経験した飯舘村。この経験の中には、非常事態において実際に行動したからこそ分かったノウハウや課題、教訓などが存在しています。そしてそれらは、日頃の備えに生きるものです。

村は現在、当時の資料の集積や村民への聞き取りなどを、生涯学習課を中心に進めていて、記録や保存の方法を検討しています。今後、協力の呼びかけがある際には、ぜひ皆様のご協力をお願いします。



次々に届く物資を庁舎内で移動する職員。飲用水の全戸配付も実施。



災害対策本部では朝夕に全体ミーティングを行い情報を共有しました。



数多くの緊急車両が往来。写真はスポーツ公園に駐留した自衛隊の車両。



役場の会議室に置かれた災害対策本部。発電機を使い裸電球を点灯。

震災当時は産業振興課商工観光係の職員でした。大地震の時は庁舎内にいて、引き出しがバンと開き、私はとっさにパソコンを押さえました。夫も相双地区の自治体職員で、揺れの直後に二度電話で話したきり、携帯電話が通じなくなりました。私は村営住宅に住んでいましたが、宿直用の布団を借りて役場の休憩室に泊まりました。

沿岸部からの避難者も受け入れ避難所となったいちばん館の調



健康福祉課福祉係の佐藤こずえ係長。震災当初に避難所となった、いちばん館に勤務します。

理室で、ひたすらおにぎりを握りました。婦人会、女性消防隊、給食センターの皆さんが、自分の家のこともありながら協力してくださいました。自宅から海苔や梅干しなどを持ち寄り、米を炊き続け、1日1200個を握りました。村内の商店からの食材の寄付もありました。避難者の入れ替わりが激しく、数時間で人数が大きく変わる日もありました。

避難所が縮小されてからは、広報車での呼びかけや、水の配付などにも携わり、係では事業者さんの移転に関する聞き取りを国の担当者と一緒に行いました。

全てが初めてのことで無我夢中でした。やらなくてはという気持ちで動いていました。村の職員は全員が現場に残っていて、皆同じだ、皆で頑張ろうという意識が強かったと思います。毎日朝夕に全体会があり、若い人も手を挙げて、言うべきことを言っていました。

計画を練っても訓練をしていても、現場ではそれ以外のことが起



多くの村民の協力を得て、いちばん館の調理室でおにぎりを握り、避難者に提供しました。

こつてきます。私達の経験を、後輩に伝えていかなければと思います。当時のメモが残る手帳などは震災の資料として村に提出しました。

復興が進み少しずつ以前のようになつてきたと感じる一方で、10数年経っても終わらないこともあつて両極端な感覚があります。現在の部署の福祉の分野にも、まだまだ必要なものがあると思います。できることから取り組んで、村の皆さんとつながりながら歩んでいきたいと思っています。

ライフラインを支えて



県道原町川俣線でガソリンスタンドを経営する北原商店の北原博史さんと妻の文恵さん(草野)。

揺れが来てすぐ停電になって、給油中の計量器が止まりました。手動に切り替えましたが、男性が息を切らして手で回してやっと5Lが出せる状態。これでは駄目だと翌日、電動ドライバーの口先を加工して計量器に取り付け、10L程は販売ができるようになりました。その後停電は解消しましたが、今度はガソリンが尽きてきて、できるだけ多くの人に販売できるように、量に制限を設けました。

原発事故の影響でタンクロー

リー車が来なくなり、危険物取扱者の資格を持つうちと荒木屋さんが交替で、村のガソリン調達に同行することになりました。郡山まで行つてタンクローリー車を借り、宇都宮市でガソリンを積んで、村に運びました。

自衛隊の車両や、救急車、パトカーなどが店の前の県道を行き交っていました。家庭用のプロパンガスも扱っていますし、沿岸からの避難者もいて、仕事は続けなければならぬと思っていました。朝の4時頃から車が列をつくり、消防団の皆さんが公民館の駐車場を使つて車列を誘導してくれました。その後、村が給油用のカードを村民に配つて給油対象が限定され、そのまま全村避難まで毎日店を開けました。

当時は村の依頼を受け浄水場の見回りも行っていました。避難先を探すこともままならず、子ども達の授業参観にも行けない日々を過ごしました。従業員にも迷惑をかけたと思います。

避難が進み人影が消えてからは、曜日と時間を限つて給油を行いました。近くに消防分署があり、公民館の駐車場には警察車両が集まつていて、責任を感じて仕事をしていました。燃料会社も運転手を探し、線量計を持たせて配送の体制を取ってくれました。

居住人口が減少し、どこまで頑張つていけるか見通せない部分はありますが、今は戻った皆さんの生活や復興事業に携わる企業を支えていこうと思っています。



3月15日、開店前に並んだ車列。「1台1,000円分」「1台10L」などの制限を設けて給油しました。

飯舘村こども議会

2月19日、村の議場で『こども議会』が行われました。コロナ禍などの影響もあり議場で一般質問を行う『こども議会』は6年ぶりです。今回は2部構成で企画され、第1部で一般質問を、第2部で『いいたて学』の成果発表を行いました。

第1部 一般質問

6年生議長



5・6年生の7人の児童が、飯舘村こども議会議員として、一般質問を行いました。通常の議会と同じく村長をはじめ村の幹部が出席し、議員の質問に対し答弁を行いました。※答弁は要約です。



児童の力で議会を運営 一般質問も堂々と

6年生の児童が、議会議長として一段高い議長席に座り、姿勢よく落ち着いた態度で『こども議会』を進行しました。議員の皆さんも、堂々と一般質問に立ち、自分の意見や提案を述べました。

また、4年生も議場に足を運び、傍聴席で『こども議会』を傍聴しました。1～3年生の児童は、いいたて希望の里学園で、議会中継配信を視聴しました。



4年生は傍聴券に必要事項を記入して傍聴席に座りました。



議員の質問や提案を受けて、村長、教育長、各課の課長が答弁を行いました。



6年生議員



(質問)「あぶくまもち」のもち米のように有名でおいしいお米が増えてきたので、すぐに食べられるようにするいいと思いました。だから、農家さんや村の人達がすぐに精米できるように、飯舘村に精米所を増やすのはどうですか。

(産業振興課長の答弁) JA飯舘支店にコイン精米所があります。令和6年度の「あぶくまもち」の出荷量は34tでした。米の生産量の増加に合わせて関係機関と協議し検討していきます。

(質問) 他のところに住んでいる子どもは、お家の近くの学校に通っていると聞きました。飯舘の子ども達が、飯舘に住んでなくても村の学校に通えるのはどうしてですか。

(教育長の答弁) 本来は「通学区域」という範囲がありますが、飯舘村は原発事故の影響で避難をしたため、村に住んでいなくても、その後他の市町村に引っ越しをしても、村の子どもとして、「いいたて希望の里学園」に通うことができるようになっています。

(質問) 飯舘村の冬の夜は、特に暗いと感じます。外が暗すぎると動物が出てきたり、車や徒歩などで事故が増えたりすると思います。暗いところを減らすために、街灯を増やしてみてもいいですか。

(住民課長の答弁) 役場が管理する街灯・防犯灯は789基あり、自分で街灯を設置する方には補助金も設けています。村は、交通死亡事故ゼロの日が2,700日以上続いています。皆で交通ルールを守り、事故を防止することも大切と考えます。また夜は暗く感じますが、村の星空は美しく、大学の観測所なども置かれています。

より暮らしやすく

ふるさとを見つめて調べて考えた

児童の皆さん

魅力を生かした村づくりを

具体的で心のこもった提案

ありがとうございました！



(質問) 飯舘には習い事をするところがなくて、習い事をするには遠くに行かなければいけません。サッカークラブやピアノ教室に通いたくても、学校が終わってから行けるところはありません。学校の後に、飯舘の子どもたちが自分のいいところをもっと伸ばせるように、習い事ができる場所をつくってみてはどうですか。

(生涯学習課長の答弁) 震災以前は野球やサッカーなどのスポーツ少年団、ピアノや書道などの習い事教室がありました。新たな場所をつくることは簡単ではありませんが、村にはスポーツや習い事を教えられる人がいますので、皆さんに聞いていきたいと思います。

(質問) 東京都には、東京タワーがあり、たくさん人が集まっています。飯舘村にも歴史を紹介したり、飯舘村の魅力を知れたりするタワーのようなものがあれば、観光スポットになってたくさん人が集まり、飯舘村の復興にもつながると思うのでつくってみてはどうですか。

(村長の答弁) 村のシンボルとなるタワー、素晴らしいアイデアですね。村民の皆さんからお預かりしている税金でタワーを整備することには難しさがありますが、これからも素敵なアイデアをぜひ一緒に考えてください。村は標高が高いので、皆さんの学校は、実は東京タワーの先端より高い場所にあるんですよ。村にはまだあまり知られていない魅力的なスポットがたくさんあるので、それらの情報発信にも努めていきたいと思っています。

5年生議員



(質問) 私はたまにふれあい館で本を借りていますが、幅広い年代の人が読める本が少なく、今では少し物足りなく感じています。だから、幅広い年代の人も読めるように、本を集めて、多くの人が利用できる図書館をつくるのはどうですか。また、図書館に読書メッセージコンテストで賞をもらった人の作文などを展示すれば、参考にできるし、本を読む人が増えると思うのですが、いかがですか。

(生涯学習課長の答弁) 現在、交流センター「ふれあい館」には約5,000冊の本があります。新たに図書館をつくることは難しいと考えますが、自分が読みたい本をリクエストすることができますので、ぜひ活用してください。また、交流センターで行っている読書メッセージの展示は、今後学園でも行いたいと考えています。

(質問) 飯舘村にある「ふかや風の子広場」は、遊具が小さかったり、年齢制限があったりして、私達高学年が遊ぶ遊具がありません。しかし、風の子広場に建てると小さい子ども達が遊べなくなってしまうので、使われなくなった公園や空き地を整備し、アスレチックや大きな公園を建ててはどうでしょうか。

(村づくり推進課長の答弁) ご質問の通り、風の子広場の遊具は主に低学年が対象ですので、高学年でも楽しみなが体を動かせる施設があることは望ましいと考えます。これから進める「村民の森あいの沢」の整備では、高学年以上の方が楽しめる施設も考えながら進めたいと思います。

(質問) 高校や大学は、入学するだけでもお金がかかります。また、村外の高校や大学に通うには引っ越ししたり、バスや電車の交通費を払ったりする必要があります。そのため、飯舘村に高校や大学をつくってみてはどうですか。

(教育課長の答弁) 村に高校や大学があれば、地域が元気になる可能性があり、実際によい結果を得ている市町村もあります。しかしながら、高校や大学の設置には、内容の検討や建物の準備などに多くの時間とお金がかかるという難しい問題があり、よい面と難しい面の両方を住民と話し合って進める必要があります。現在は皆さんへの支援として、通学の交通費や授業料などに役立てていただく「高等学校等通学費等貸付事業」と「奨学金貸付事業」を行っています。

6年生議員



5年生

「飯舘村の農業紹介」をテーマに活動している5年生は、当初、ジャガイモ品種「イータテベイク」と復興牧場「フェリスラテ」の牛乳を使ったバターによる「じゃがバター」づくりを計画しましたが、日程の調整が難しく、実現することができなかったそうです。

そこから再度調査をして、飯舘村でホーリーバジルを生産し商品開発を行っている株式会社サガデザインシーズに注目。同社でインタビュー取材を行いました。そこでホーリーバジルの香りに可能性を感じた5年生は、栽培を担う「いいたて結い農園」を訪問し、ホーリーバジルの選別やエゴマの収穫を体験。力を合わせて農業に取り組む農園の皆さんの思いにも触れました。5年生はさらに、自分達でもホーリーバジルを育て、サシェ（香り袋）を作製。作品をいいたてつ子発表会「赤蜻祭」で展示しました。

5年生は、活動を通して村の農業がまだまだ復興の途中であることに驚き、自分達が「農業おこし協力隊」になろうという目標を立てました。また、今年度の活動をまとめたホームページを制作しました。※右のQR



いいたてつ子発表会「赤蜻祭」で展示したサシェ。

6年生

山津見神社を訪れオオカミ天井絵を見学した6年生は、その素晴らしさを体感し、「身近なことでも知らないことがある。それを知らせていこう」と考えました。神社や伝統文化を調べることから始まり、「もっとよい村にしよう」と受け継いできた人々の思いにも触れました。

いいたて希望の里学園の前期課程の児童が取り組む「元気太鼓」は、「はなつか太鼓」のアレンジで、「はなつか太鼓」のメンバーが練習に協力しています。6年生は、活動を通して、「私達も太鼓の演奏で多くの人に元気や勇気を与え、伝統をつなごう」と意識を高め、いいたてつ子発表会「赤蜻祭」での演奏に臨みました。

また、村の歴史や伝統文化、特産品などを題材に、プログラミングソフトを使って「改訂版！飯舘検定」を作成しました。前年度の6年生が作成した検定を参考にした、オリジナルの新作です。正解しても不正解でも解説が出るよう工夫をした他、イイタネちゃんやオリジナルキャラクターをデザインに加えるなど、親しみやすさ、分かりやすさにもこだわりました。

素晴らしい活動内容と発表に、講評では惜しみない賛辞と感謝が伝えられました。子ども達が「村の情報発信に加えてほしい」と話すと、杉岡村長が「ぜひ一緒にやらせてください」と笑顔で応えていました。



第2部 『いいたて学』学習成果の発表

第2部では、5年生と6年生がそれぞれ『いいたて学』の活動について、いきいきと発表しました。

熱い思いを込めて『いいたて学』

(質問) 私は福島駅周辺に遊びに行くときなどにバスを利用します。バスは子どもやお年寄りなど車がない人にとってとても便利です。飯舘村にも、バス停がありますが、数が少なく、バスの本数もあまりありません。バスの本数やバス停を増やしたり、村の中を回るバスをつくったりすれば、村の人達にとって、役に立つのではないのでしょうか？

(住民課長の答弁) 路線バスの停留所は17か所あり、福島市と南相馬市を1日6往復するバスが運行されています。以前運行していたコミュニティバスはありませんが、村内施設や村外の買い物に利用できるワゴン車を運行していて、予約時間に自宅から乗れるようにするなど少しでも便利になるよう工夫しています。



5年生議員

(質問) 社会科の授業で、防災について学習しました。ハザードマップが生活に大切なことが分かりました。しかし、漢字が難しく子どもには読めません。そこで、子どもも命を守るように、ハザードマップにふりがなをつけてはどうですか。

(総務課長の答弁) 村の広報紙などは、小学生が読める漢字を使用するよう努めているところですが、村の防災ハザードマップを確認したところ、確かに、大人向けに作られてきたため読みにくい漢字がありました。今後は分かりやすい表記に努めてまいります。

(質問) 飯舘村にあるセブンイレブンは、20時までとなっています。私は村に住んでいますが、夜、セブンイレブンに行きたい時にしまっていることがあるため、川俣や原町などに出かけています。道の駅でもあり、飯舘村を通る人で夜に買い物をしたい人も多いと思うので、セブンイレブンの営業時間を長くしてはどうでしょうか。

(村づくり推進課長の答弁) 営業時間が長いと便利ですが、お店側からすると赤字にならないように営業する必要があり、お客さんが少なくなってしまう時間にはお店を閉めることにしているのだと思います。村としてはこれからも、住んだり働いたりする人が増え、お店を利用する人が増えるような努力をしていきたいと思っています。



5年生議員

(質問) 社会科の授業で、雪が多く降る地域では、道路での事故を少なくする対策があるそうです。飯舘村も多くの雪が短時間でも積もり、日陰になる道路に雪が残っているのを見かけます。事故を起こさない対策で、雪がとけやすい道路に変えたり、除雪を素早くしたりすることはできるのですか。

(建設課長の答弁) 村内の除雪は9社に依頼をして、15cm積雪で地域間を結ぶ重要道路を、30cm積雪で生活道路を追加して除雪をしています。また、雪の状況や見通しを確認しながら進めています。道の駅には地中熱融雪ヒートパイプを歩道の一部に設置していますので、ぜひ一度見学してみてください。



5年生議員

第1部 一般質問の続き

子ども達は、飯舘村のこと、自分達の暮らしのことを真剣に見つめ直して課題をまとめ、それに対する自分の意見やアイデアを持って一般質問に臨んでいました。堂々と意見をやりとりする様子が、とても頼もしく感じられました。

5年生議員



就任ごあいさつ



教育長
高橋 澄子

飯館村への感謝を胸に教育行政に取り組みます

令和7年1月30日付けで、教育長を拝命しました高橋澄子です。飯館村の復興の重要な役割をもつ教育の充実・発展を図ることが大きな使命と心得、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

私は飯館村に2度勤務経験があります。1度目は結婚を機に飯館村民となり平成5年度から5年間、白石小学校に教諭として、2度目は平成13年度から3年間、飯館村公民館に派遣社会教育主事として勤務しました。

白石小学校では素直で元気一杯の子どもたち、協力的な保護者、仕事に前向きに取り組む同僚の先生方に囲まれ、多くのことを学びました。飯館村公民館勤務では、映画祭や地域スポーツクラブの立ち上げ、男女共同参画プランの策定など様々な事業に関わり、社会教育の重要性を強く認識しました。

教員生活を40年勤め上げられたのも飯館村での勤務経験のお陰と感謝の念で一杯です。これからは飯館村への恩

返しとして教育行政に携わって参りたいと思います。

さて、今は変化が激しく先行きが不透明で、将来の予測が困難で正解のない時代だとも言われています。このような時代ではありますが、子どもは村の未来！村民一人一人の学びがその未来を豊かで輝かしいものにしていくのだと考えます。

0歳から15歳までの子どもたちがまでのりの里のこども園、いいいて希望の里学園ですくすくと竹のようにしなやかに成長していく姿と、村民一人一人が生涯にわたって学び続けていく姿が融合することにより村長が掲げる「わくわくする村」のベースが築かれます。

「村づくりは人づくり」という考えを大前提に微力ながらも村民の皆様と共に手を携えて教育行政に邁進していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋澄子 教育長 旧鹿島町、旧原町市、相馬市など相双地方の小学校に教諭・教頭として勤務。飯館村では平成5年度から白石小学校で5年間、平成13年度から派遣社会教育主事として飯館村公民館に3年間勤務し、その後、相双教育事務所社会教育主事を経て、二本松市立安達太良小学校、新地町立駒ヶ嶺小学校、新地小学校などで校長を歴任しました。

こども園・希望の里学園で豆まき

2月3日、までのりの里のこども園といたて希望の里学園で、節分の豆まきが行われました。

までのりの里のこども園の3歳未満児クラスでは、新聞紙を丸めて豆に見立てたものを、鬼に向かって一斉に投げ退治。3歳以上児クラスでは自作のお面や被り物を身につけ、大きな声を出して現れた鬼に驚きながらも、懸命に豆を投げ、鬼退治をしました。



こども園

いたて希望の里学園では、玉入れのかごに鬼の絵を付け、そこに向かって球を投げるレクリエーションが行われました。児童生徒は自分の中にある「追い出したい鬼」をそれぞれ絵にして、自分の治したいところなどを思い浮かべながら、一生懸命球を投げました。



学園

おいしいイチゴ、みんなでいただきました！

2月4日にまでのりの里のこども園の園児、2月6日にいたて希望の里学園の児童が、二枚橋地区にある「いいいて佐藤いちご園」に、イチゴ狩りに出かけました。今回のイチゴ狩りは、同園の代表である佐藤博さん(二枚橋・須萱)が企画したものです。「冬場は子ども達が楽しめるレクリエーションが少ないと思い、昨年に引き続き実施しました」と佐藤さん。子ども達は甘いイチゴを頬張り、満面の笑顔を浮かべていました。



いつもやさしく接してくださる佐藤さんで夫妻との心温まる交流も。素敵な贈り物がありました！



学園



いいいて希望の里学園

2月は寒波が続いたかと思えば、春の陽気に包まれ、寒暖の差が大きくなりました。三寒四温と言うものの、これ程極端な年は、なかなかないかも知れません。「いいたて村芸能発表祭」で交流センター「ふれ愛館」が賑わっていた2月16日のセンター地区です。日差しに恵まれ、雪解けの水が道路を濡らしています。普段は車がたくさん停まっている村役場もひっそりと、穏やかに春を待つ日曜日のセンター地区です。





「宮内の笠踊り・手踊り」の披露。会場から「スーイスイ」の掛け声。「懐かしいなあ」と涙ぐむ人も。



オーストラリアで津軽三味線奏者として活躍する只野徳子さんが圧巻の演奏。小宮出身の父・豊成さん、息子の大喜さんも共演。



格式を感じさせる「宮仲の神楽」。菓子を撒きながら登場したひょっとこも会場を盛り上げました。



若手真打・鈴々舎馬るこ(れいれいしゃまるこ)の軽妙な落語を、会場が一体になって楽しみました。



ゲストとして出演した音曲漫才「めおと楽団ジキジキ」。観客もノリノリでステージを盛り上げました。



それぞれの歌声で会場を魅了した「トロワ・メロディーズ」は震災後に村民になった3人のグループ。



宮城県石巻市から参加したコーラスグループ「コンプリオ」は飯舘村に縁を持つオリジナル曲を披露。



山岸安博さん(白石)が心に染みるオリジナル曲を披露。観客と主催者に感謝を伝えて歌いました。



「いいたて太極拳サークル」。美しさと迫力を兼ね備えた演舞に会場から大きな拍手が湧きました。



「JAZZ喫茶くま」(上飯樋)に集う音楽仲間のステージがオープニングを飾りました。



華やかな「小宮の田植踊」。小学生・中学生の2人の早乙女が、この日、初舞台を踏みしました。



「いいたてフラクラブ」のステージ。多彩な音楽に合わせて、やさしい笑顔でフラを披露しました。



「琴の会」は技巧を駆使した箏曲を披露。琴の音色の新たな魅力に惹きつけられた方も多かったのでは。



「奥州相馬赤坂神楽団」による神楽の披露。お囃子に合わせて獅子が鮮やかに舞いました。



2月16日、交流センター「ふれ愛館」で『いいたて村芸能発表祭』を開催しました。今年の発表祭には4つの伝統芸能の保存会が出演した他、個人と団体合わせて8組が音楽、フラ、太極拳などを披露。さらに2組のゲストのステージもあり、非常に充実した発表祭になりました。

伝統芸能の披露には会場から「懐かしいなあ」という声が漏れ聞こえ、個人団体の多彩な発表には、「すごいな」「かっこいいな」の賛辞。また、ゲストの音曲漫才や落語では大笑いをして、会場に活気があふれました。

「いいたて愚真会」の温かい蕎麦や「極久里珈琲」のコーヒーの振る舞い、「ゆかり農園」の軽食販売も人気を集め、久しぶりに顔を合わせた人同士が、観覧の合間に、笑顔で会話を弾ませました。お開きの後には「こんなに芸能が見られてよかったなあ」「素晴らしかった」という声も聞こえてきました。



温かなコメントでステージと観客をつないだ司会の和合敦子さん。

いいたて村芸能発表祭



本田よう一先生(前列右から3人目)を囲んで記念撮影。多彩な体験を通して参加者が交流を深めました。

「厳寒の飯館を愉しむ！」 2つのツアーを合同開催

2月2日、「第9回飯館YOITOKO発見!ツアー」と「飯館・村内1日バスツアー」を合同開催。県内外から25人が参加しました。一行は、綿津見神社で「宮内の笠踊りと手踊り」を鑑賞し、「作見の井戸」でも村の歴史に耳を傾けました。いちばん館では、郷土料理を味わいながら交流。料理研究家の本田よう一さんをゲストに迎え、一緒に凍み大根づくりや団子さしを体験し、先生考案のレシピで凍み餅の調理も行いました。盛りだくさんのプログラムと温かな交流に、皆さん大満足の様子でした。



強風でリフトが止まる時間帯もありましたが、冬山らしい天候も貴重な体験。子ども達は元気いっぱいでした。

あだたら高原スキー場にて スキー・スノーボード交流会

2月11日、あだたら高原スキー場(二本松市)で飯館村公民館・いいたてスポーツクラブ主催の『スキー・スノーボード交流会』(復興庁被災者支援総合交付金事業)を開催。小学生からシニア世代まで27人の参加者が、レベルに応じた班に分かれてスノースポーツを楽しみました。

インストラクターやいいたてスキークラブのメンバーによる指導も「技術の向上に役立った」「息子が滑れるようになった」と好評。参加者同士が世代を問わず交流を深めていました。



小宮の田植踊



大倉の神楽

小宮の田植踊・大倉の神楽を 双葉町の震災伝承館で披露

県が双葉町に設置した「東日本大震災・原子力災害伝承館」で昨年12月より開催されている企画展「長期避難と祭り」の一環で『ふたば・いいたて民俗芸能大集合!』が2月22日・23日に開催され、飯館村からは小宮民俗芸能保存会の田植踊と大倉民俗芸能保存会の神楽が参加しました。原発事故により長期避難を余儀なくされた中でも伝統芸能を継承・復活させている団体の姿を披露する趣旨の催しで、両保存会は23日に出演し、館内のロビーで華やかな舞いを披露しました。

飯館村水道事業運営協議会・ 農業集落排水事業運営協議会答申

飯館村水道事業運営協議会・農業集落排水事業運営協議会が、村の諮問3件に対する答申を行いました。答申は1月31日に村役場で行われ、「水道使用料及びメーター使用料改定の見送り」「農業集落排水処理施設使用料改定の見送り」「給水装置工事および排水設備工事に係る指定工事業者の登録・更新に係る手数料の徴収」の3点が答申されました。両審議会の長正増夫会長(大久保・外内)、鹿山真広副会長(深谷)が、杉岡村長に答申書を手渡しました。



長正会長(右から2人目)と鹿山副会長(右端)から答申書を受け取る杉岡村長と中川副村長。

マルナカ株式会社から 防災グッズの寄贈

環境省発注の事業などを通して村の環境保全に尽力いただいている「マルナカ株式会社」(二本松市)から防災用品を寄贈いただきました。「頻発する災害への備えを万全にすることが、地域の再生や発展につながる」という思いのこもった寄贈です。

贈呈式は1月31日に村役場で行われました。同社の遊佐憲治取締役副社長が「村民の皆様の理解があってこそ私達も事業が行える。防災力強化の一助としていただきたい」と目録を贈呈。村は同社に感謝状を贈り、支援に感謝を伝えました。



目録を手渡す遊佐副社長(右から3人目)。救助に役立つ工具等のレスキューキット3点をいただきました。

横山梨沙さん任期満了で 地域おこし協力隊を卒隊

飲食店の運営を中心に多彩な活動を展開してきた地域おこし協力隊の横山梨沙さんが、3年間の任期を満了し1月31日に卒隊。同日、村役場で卒隊式が行われました。結婚のため春に転出することになった横山さんは「村に残ることができなくなり本当に申し訳ない。村を離れたら、村民の皆さんの温かさ、他にはないおいしい食材がずっと恋しくなります」とあいさつ。卒隊証書を手渡した杉岡村長は、これまでの尽力に感謝し、新たな門出に心からのエールを送りました。



金ウン



協力隊仲間や村職員が駆けつけた式。横山さんの後ろは「金ウン(金運)」を授けに来たOGの二瓶麻美さん。

老人クラブ連合会×食を考える会

2月7日、飯館村老人クラブ連合会と「食を考える会（飯館村食生活改善推進協議会）」が合同で栄養講座を開催しました。参加者は、「高齢者の食事」をテーマにした講話で、栄養バランスや食品に含まれる栄養素などについて学び、その内容を踏まえて「サバと切り昆布の炊き込みごはん」「ざくざくごまみそ風味の味噌汁」「バナナヨーグルト」を調理。交流を兼ねて料理を味わい、感想を述べ合いました。



老人クラブ連合会が交通安全教室

1月27日、交流センター「ふれ愛館」で、飯館村老人クラブ連合会が、交通安全教室を開催しました。南相馬警察署交通課の檜山高典交通第一係長による講話「交通事故防止について」では、参加者が真剣な表情で耳を傾け、事故の防止に役立つ知識や注意点を学びました。また、さまざまな交通状況や天候を設定できる模擬運転装置「自動車シミュレーター」の体験では、運転時の危険予測の重要性を実感していました。



自分の「名前」の由来を知ろう 飯館ライオンズクラブが企画

1月27日、いいたて希望の里学園で、飯館ライオンズクラブ主催の『親からの名前の由来について発表会』が行われました。会には、同クラブの会員も出席し、代表の菅野典雄さん（佐須）が「名前はお父さん、お母さんが一生懸命考え、想いを込めて付けたもの。その想いを知るきっかけにしてほしい」と事業の意図を語りました。

会では代表で7人の児童生徒が、自分の名前の由来に対する感想を発表し、参加した保護者も名前を付けた時のエピソードや想いを子ども達に伝えました。

弱っている人、困っている人を助ける人になりますように。

何歳になってもかっこいい人間でありますように。

「村の花」から名前をとって。

誰に対しても優しく、愛される人間になりますように。

名前に込められた想いを受けてこれから人生を歩んでいく児童生徒の成長が楽しみです。

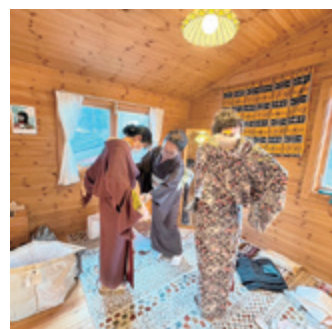


記念品の贈呈も。

COCODAで着付け&セラピスト体験

1月25日、ゲストハウスCOCODAで、福島台湾経済文化交流協会主催の『着付け&セラピスト体験授業』が開かれました。

今回が、全3回の最終回。2人の講師が客室を使って講習を行い、参加者はリラックスした雰囲気、着付けやマッサージを体験しました。また、薪ストーブの暖かさが心地よいリビングでは、ギターやキーボードの弾き語りが行われ、参加者が台湾茶を味わいながら、和やかに交流。終わり際には「また開いてほしいですね」と名残惜しそうに話していました。



地域愛を次世代に繋ぐ「支障木伐採」

昨年11月30日、佐須行政区が、「ふるさと林道堤入線」において、『令和6年度住民参加型支障木伐採作業』を実施しました。作業には避難先からも多くの人が参加。伐採資格を取得したばかりの若い人達が、経験豊かな先輩方と一緒に、道路に覆い被さる支障木を伐採しました。防護服を着用するなど安全な作業に徹しながら、共同作業のよさも味わい、復興支援道路のインターチェンジにアクセスする大切な道路をきれいにしました。



人権擁護委員が人権啓発活動

2月16日、人権擁護委員の皆さんが、交流センター「ふれ愛館」で啓発活動を行いました。同館ではこの日、「いいたて村芸能発表祭」が開かれており（芸能発表祭の様子はP16）、委員の皆さんは来場者に啓発グッズを手渡し、人権への理解を呼びかけました。人権擁護委員は、人権相談を受けて問題の解決を手伝ったり、法務局職員と協力して人権侵害から被害者を救済したりと、日頃から地域住民の人権を守る活動を担っています。



「あぶくまもち」のおこわおむすび

令和6年飯館村産のもち米「あぶくまもち」を使った「おこわおむすび」が、コンビニエンスストア「セブン-イレブン」で販売されています。3年目となる今年のラインアップは「味おこわ」と「舞茸入り五目おこわ」の2種類で、販売エリアは全県に拡大。完売にて終了する限定販売の商品です。

1月下旬の発売日には、「道の駅までい館店」の移動販売車が、昼休みに合わせて村役場で販売。職員らが列を作って買い求め、村自慢のもち米を味わいました。



地域と共に、ここから風景を変えていきたい
イイタテバイオテック株式会社



イイタテバイオテック株式会社は、日本環境株式会社グループ会社。長泥地区の再生と活性化を目指す企業誘致に力を入れています。令和7年春からの稼働に向けて、準備を進めています。

同社の工場では、近隣自治体の下水汚泥を受け入れ、乾燥させて肥料の原料を製造します。工場内は工程ごとにエリアが区切られ、汚泥の受け入れから製品の搬出まで、

汚泥を乾燥するプラントの操作や管理はタッチパネルで行います。



全ての工程が連続したプラント内で完結します。また、工場内で使用する井戸水は、浄化装置を使いながら循環させ、複数回使用した後に熱処理で蒸発させるため、排水も出さない仕組みになっています。そして、肥料原料の大部分は日本環境の堆肥化施設で利用され、一部は構内の堆肥化施設で堆肥にします。

この工場では、乾燥炉に熱風を送る熱源のボイラーの燃料の一部に、地区内で栽培する資源物のソルガムをペレットに加工して使用します。ソルガムの栽培は、地区の人々の協



堆肥化施設の内部。切り返しをして発酵を促進し、よい堆肥をつくります。

力を得ながら、借り受けた農地で進め、農地の再生にも取り組んでいます。

同社の設立を牽引してきた大堀眞取取締役は「農地利用を一体で進め、風景をここから変えていきたい。地域と密接に関わり、活気が戻るきっかけをつくってほしい。地域の一人という意識でやっていきたい」と話します。

同社はすでに、地区の行事などに社員総出で参加をしていて、本格稼働後は最新のリサイクル施設として、社会科見学なども積極的に受け入れたいと考えているそうです。

イイタテバイオテック株式会社
飯館村長泥字曲田39-1
☎0244-32-1897



原料となる汚泥を回転させ熱風で乾燥させる円筒形の乾燥炉。

長泥地区一部区域の新たな避難指示解除は3月31日で国・県・村が合意

長泥地区の一部地域において、「土地活用スキーム(枠組み)」に基づく新たな避難指示解除が行われる見通しです。

帰還困難区域に指定された長泥地区は、令和5年5月に、特定復興再生拠点区域及び拠点区域外の長泥曲田公園で避難指示が解除されました。今回新たに避難指示解除が検討されているエリアは、イイタテバイオテック株式会社の施設と資材置き場、資源作物を栽培する農地などを合わせた約6.2haです(同社の事業についてはP23をご覧ください)。

村の諮問を受けて、飯館村環境回復検討委員会が、当該区域の空間線量等の低減について検証を行い、1月10日に答申を行っています。また、2月2日には長泥地区住民説明会を開き、国・県と解除日を協議するにあたり、村と住民が協議を行いました。

これらを踏まえて2月24日、国・県・村による避難指示解除日の協議が福島県庁で行われ、3月31日を解除日とし準備を進めることで三者が合意しました。

〈土地活用スキーム〉 拠点区域外の土地活用に向けた避難指示解除に関する枠組みで、令和5年の長泥曲田公園(約0.64ha)の避難指示解除にも活用されています。

2月の村の動きと主なできごと

- 1日・産業団地地権者説明会(深谷集会所)
- 2日・長泥住民説明会(交流センター「ふれ愛館」)
- ・第9回飯館YOUTOKO発見ツアー/飯館村内1日バスツアー(村内各所)
- 4日・飯館村要保護児童対策地域協議会代表者会議(いちばん館)
- 5日・福島県建築文化賞表彰式(福島市・杉妻会館)
- 5日・7日・ゆずカフェ(いちばん館)
- 7日・行政長・副区長会議(宿泊体験館きこり)
- 10日・飯館村第7次総合振興計画策定専門部会員ゼロカーボン研修会(いちばん館)
- 11日・スキー・スノーボード交流会(二本松市・あだたら高原スキー場)
- ・相馬野馬追相馬流山踊集合練習(交流センター「ふれ愛館」)
- 14日・3月17日・令和6年分申告相談(ビレッジハウス)
- 16日・令和6年度いたて村芸能発表祭(交流センター「ふれ愛館」)
- 17日・飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 第5回教育部会(村役場)
- 18日・飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 第5回生活部会(村役場)
- ・飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 第5回なりわい部会(村役場)
- ・第2回社会教育委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 19日・飯館村こども議会(議場)
- 20日・農業委員会定例会(村役場)
- ・飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 第5回健康部会(いちばん館)
- 21日・総合教育会議(村役場)
- ・定例教育委員会(村役場)
- 23日・「ふたば・いたて民俗芸能大集合!」に小宮の田植踊、大倉の神楽出演
(双葉町/東日本大震災・原子力災害伝承館)
- 24日・国・県・村で長泥地区一部区域の避難指示解除日を協議(福島県庁)
- 26日・第3回子ども子育て会議(いちばん館)
- ・第2回ゼロカーボンビレッジいたて実行計画協議会(村役場)
- 28日・3月14日・3月議会定例会(議場)
- 28日・令和6年度飯館村男女共同参画講演会「やりたいことをやっていい」
(交流センター「ふれ愛館」)

鳥獣被害対策とは何か

～3つの「できること」～

ひと昔前に比べると、テレビやインターネットのニュースで、鳥獣被害に関する記事を目にすることが多くなったと感じています。世間の関心が大きくなっているのでしょう。ニュースなどでよく言われるのが、「ハンターの減少」が課題になっているということです。確かに、そのような側面はあると思いますが、最大の課題なのでしょうか。

鳥獣被害対策は、ハンターなど、一部の誰かが担うものではなく、皆で協力して行っこそ効果が出るものです。特別な資格や技術がなくても、できることはあります。

私たちにできること

1. 環境整備

農地や住宅の周りの環境を、野生動物が好まない環境にしてしまうのが環境整備です。野生動物は、身を隠すことのできるやぶを好みます。刈り払って、隠れ場所を減らしましょう。また、収穫しないくず野菜や生ごみなどは、野生動物にとって料亭並みのごちそうです。動物に与えてしまわないよう、片付けましょう。カキやクリなどの果樹は、実を放置しないように管理しましょう。管理が難しい場合は、伐採を検討してください。

2. 防除

環境整備を行っても、農地に作物があれば野生動物は来ます。ワイヤーメッシュ柵や電気柵などを設置して、農地を一周囲みましょう。柵は設置して終わりではなく、日ごろの点検や管理がとても重要です。柵の近くにやぶがあれば、動物が居ついていずれ突破されますので、周りの草刈りをしましょう。また、サルが来たら、その都度追い払いましょう。

3. 捕獲との連携

環境整備と防除をしても、悪質な野生動物によって被害が出ることがあります。そんな時は、役場に連絡して、捕獲従事者に伝えてもらってください。捕獲をすることになっても、環境整備と防除は続けましょう。

対策をしても、一度で効果が出ないこともあります。常に工夫して、改良して、私たちにできることを繰り返していきましょう。その先に成功があります！

お知らせ

令和7年度は、飯館村内のできるだけ多くの地域を回らせていただいて、鳥獣被害対策のご相談を直接お受けしたいと考えています。皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。一緒に対策を考えましょう！

イラストも…！
イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

きょうろ あつし
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。



公共の建物 思いを形に意義を高めて

歴史の散歩道

「ふかや風の子広場」の屋内運動施設『ひみつ基地』と『きどき』が、第40回福島県建築文化賞「復興賞」を受賞しました（詳細はP2）。村の公共施設は、これまでも複数の建物が建築分野の賞を受賞しています。福島県建築文化賞については、特別養護老人ホーム「いいってホーム」が第20回（平成14年）優秀賞を、村営住宅「笠石住宅」が第24回（平成18年）特別部門賞を受賞。全村避難の期間にも、福島市飯野町に整備した飯館村災害公営住宅「飯野町団地」が第34回（平成30年）復興賞を受賞しています。

また、旧飯館村立飯樋小学校の校舎（現在の飯館村地域防災センター）が、公立学校優良施設として平成17年に文教施設協会会長賞を受賞。大師堂住宅団地が、令和2年に公益財団法人日本デザイン振興会のグッドデザイン賞及び日本ログハウス協会のコンテストで国土交通大臣賞を受賞するなど、村の公共施設は、さまざまな機関の賞も受賞しています。

どの施設も、意義やコンセプトを設計やデザインに込め、利用者の利便性や快適性はもちろん、建築がもたらすさまざまな効果を意識して整備されてきました。

例えば、19行政区の避難指示解除の前年、平成28年8月に開館した交流センター「ふれ愛館」は、外光を採り入れた開放的なデザイン。ホールには20行政区を意味する20本の柱があり、天井で梁が描く幾何学模様は、村民の思いが一つになるイメージを表しています。



交流センター「ふれ愛館」のホール。ステージ奥の幕を開けると大きな窓越しに外の景色が現れます。



交流を意識した住宅の配置やデザイン性が評価された「飯野町団地」。団地の中心に位置する集会所。

ふれ愛館だより 交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介します

SDG sキャラクター図鑑



秋山宏次郎 監修
いとうみつる 絵
日本図書センター

3月17日は、みんなで考える「SDG s（エス・ディー・ジーズ）の日」です。何気なく耳にするSDG sとはどのようなものなのか？交流センターでは、SDG sの基本の本や多様性について知ることが出来る本を新たに購入しました。見て、知って、身近なところから実践していきましょう。

交流センターではさまざまなジャンルの書籍・雑誌・絵本を貸し出ししています。ぜひご利用ください。

白銀の絶景から桜薫る春へ
着実な前進と心踊る試み

第29回

杉岡 誠 村長の
愛楽故郷味
あいらくふるさとみ



早くも2月が終わり、私たち村民にとって忘れられない3月がやってきました。道の駅までい館では、飯館復興三千本校をイメージした「いたて復興桜めん」が期間限定で登場します。3・11と復興桜に想いを馳せながら、「足早い春を感じていただけたら幸いです。皆様、年度末のご多忙もおありかと存じますが、お身体にご留意され、穏やかな春の訪れを楽しみましょう。」

本誌の記事にもあります通り、1月29日の臨時議会での議決を経て、翌30日より高橋澄子さんが飯館村教育長に就任されました。子ども達に対してきめ細やかに寄り添う飯館村ならではの温かい教育の進展に向けて、お力を発揮いただけるものとご期待申し上げます。

また福島市13号線近くの「旬鮮香房たわわ」さんでは、ドライエイジングビーフやナツハゼぼん酢ジュレなどが定番メニューになっています。3月上旬には、郡山市「THE RESTAURANT」さんにて、飯館産黒毛和牛フェアが開催されます。ぜひお近くにお越しの際は、お立ち寄りください。

2月は村産品をふんだんに使用した飯館を味わえるメニューを提供する飯館村フェアが東京都の「ピアス新橋店」さん、宮城県岩沼市の「レストランカシカシ」さんで開催されました。

今年も美しい雪景色が見られた飯館村の如月。二面の真つ白な世界は、まさに村ならではの絶景です。可能性に満ちた真つ白なキャンバスたる村をあらわしているような風景に息をのみました。

2月5日は東京大学弥生キャンパスにて「復興と創生ー飯館村ホッププロジェクトから」に参加し、講演をさせていただきました。昨年、東京大学の大学院生が中心となって作り出した、村内で栽培したホップを原料としたクラフトビール「IITATE ReCRAFT」が話題を呼びました。私も早朝からのホップ収穫に参加しましたが、フルーティーでありながら苦味が美味しいクラフトビールは評判も良く、今年の生産に今からワクワクしています。新しいものを生み出していくトライが今年も広がることを願ってやみません。

「2024年 飯館村10大NEWS！」発表動画を
YouTubeの飯館村公式チャンネルで公開！

「2024年（令和6年）飯館村10大ニュース」の発表動画を、動画投稿サイトYouTubeの飯館村公式チャンネルで公開しました。今年の撮影場所は、令和6年にオープンした、あの場所からお届けしています。

2024年（令和6年）のさまざまなニュースを振り返りながら、ぜひご家族・ご友人と動画をお楽しみください。



飯館村10大ニュース



飯館村公式チャンネル

公式チャンネルでは、
2020年（令和2年）から
5年分の10大ニュース
を、動画でチェックできるよ！



毎年、フレッシュな若手職員が出演して10大ニュースをお伝えしています。今回の担当は、令和6年度採用職員の波間琢海さん（住民課／右）と境田実桜さん（健康福祉課／左）です。2人の司会ぶりも、お楽しみに！

村民広報委員 富士男の

ちょっと寄り道 11

〈春を待つ！！その2〉

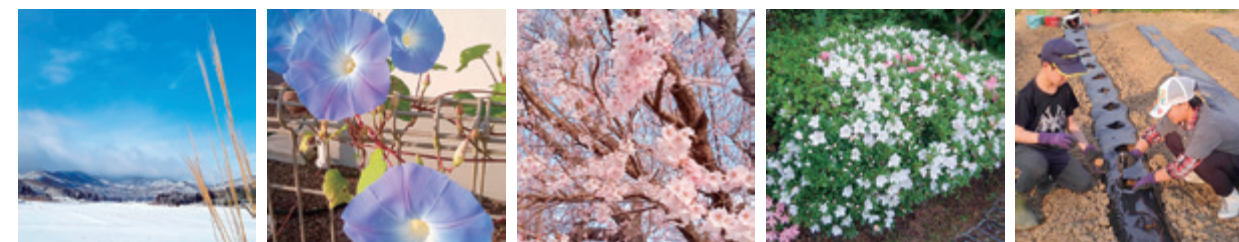


今年の冬は積雪量が例年になく多く、福島県でも多くの交通事故や雪崩の被害が発生してしまいました。1年を通じて夏がとて暑かったり、この冬も今までにない寒波に見舞われたりしました。まるで春や秋が少なく、四季が二季になってしまったようにも感じてしまいます。

それにしても長い人生を歩んできた今、春の訪れには違った想いがあります。若い頃は桜の咲く景色にただ心を躍らせ、新しい始まりへの期待に胸をはずませたりもしました。しかし歳を重ねてきた今、春は単なる季節の移ろいではなく、これまでの人生を静かに振り返る時間にも想えてきます。

桜の花は咲き誇るが、その美しさは長くは続かない。それはまるで人生の輝かしい瞬間のように、はかなくも愛おしい事と感じてしまいます。散る花びらを見つめながら、出会いと別れ、喜びと悲しみのくり返しが、人生そのものかとも想ってしまいます。かつて共に春を迎えた人々の面影もそっと心の中に蘇ってきます。

けれど春はまた新しい芽吹きを運んでくれる季節です。冬を耐えた木々が再び芽吹くように、人生にも若すぎるという事も、遅すぎるという事もないと思います。どんな世代でも、新しい何かを始める事はできるはず！春の日差しに暖められながら、これからの時間を穏やかに、そして大切に生きていきたいと、そっと心に誓ってみます。



追。。。私事ではありますが、村民広報委員を3年間務めさせていただきましたが、今回をもって退き、新しい企画に協力していきたいと想います。ご愛読、本当にありがとうございました。（F）

〈人事異動のお知らせ〉2月17日付 村づくり推進課商工観光係主査（任期付職員） 藤井一彦
（旧任 生涯学習課生涯学習係主査）

ひとのうごき

誕生おめでとう

HAPPY BIRTHDAY!

おくやみ

赤ちゃんの名前	親の名前	行政区	氏 名	年齢	行政区
大 谷 来 輝 くん	蓮 さん 花 菜 さん	小 宮	横 山 ハツ子 さん	90	草 野 ※R6.12.15届出
			眞 壁 信 男 さん	86	蕨 平
			松 岡 幸次郎 さん	89	二枚橋・須萱
			北 山 安 信 さん	98	飯樋町
			大 澤 喜 一 さん	68	上飯樋
			馬 場 保 子 さん	103	白 石
			圓 谷 美和子 さん	50	蕨 平
			佐 藤 昭 子 さん	97	上飯樋

ひとのうごき 令和7年2月1日現在

人 口	今月（前月比）	1月1日～31日までの人口動態
●男	2,271人（－8）	転入 4人
●女	2,224人（－3）	転出 6人
計	4,495人（－11）	出生 0人
世帯数	1,794戸（＋1）	死亡 8人
		（住民基本台帳人口）

（1月21日から2月15日までに届け出のあったものを掲載）
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ご冥福をお祈り申し上げます



大学生が飯館村をフィールドとした令和6年度の活動を報告しました

福島大学食農学類の学生が、1月31日、交流センター「ふれ愛館」で実践演習の報告会を開催しました。今年度はジャガイモ品種「イータテベイク」、カボチャ品種「いいたて雪つ娘」、もち米品種「あぶくまもち」などの地域資源に着目し、村の賑わいづくりに取り組みました。先輩から後輩へテーマを引き継ぎ継続してきた事業の成果に、来場者が熱心に耳を傾けました。2月12日には村役場で

「浜通り環境放射線研修」の報告会が開かれました。この研修には、大阪大学を中心とした全国の大学から、学問分野もさまざまな学生が参加。土壌・植物の採取と放射線量の測定、住民との交流、学生同士の議論などを通して、新たな知見や考え方を、共感を育んでいます。報告では「地元の気持ちに寄り添い考え続けたい」「経験を伝えていきたい」と研修で得た思いも伝えていました。

浜通り環境放射線研修



⑤今年度は5泊6日の研修を2回実施し、学生215人、教員75人が参加。2人の学生が来庁し報告を行いました。
⑥杉岡村長、研修に協力した村民らが出席して意見交換も行いました。
⑦報告する岐阜大学教育学部の額額（こうけつ）浩貴さん（右）と東北大学工学部の土明良さん。

福島大学食農学類飯館村フィールド



①3つの班がそれぞれの活動を報告しました。
②活動に協力した村民などが来場し、報告に耳を傾けました。
③質疑応答も活発に行われました。
④村の食材を使って村内の飲食業者と開発した「いいたて福福ガレット」の試食も。



〈編集後記〉

広報を担当するようになって、1年が過ぎました。各所に取材に行く中で、村民の皆様が頑張っている姿、輝いている様子を見て、元気をいただいております。1年間を振り返って、成長できたなど感じる反面、まだまだだなと思うこともあります。が、「いつまでも未熟者じゃないけない、あなたはまだもう広報なんだから」と村民の方からいただいた言葉が胸に刻んで、これから皆様への取材や広報の作成に臨んでいきたいと思えます。（巻野）

お話を聞かせていただいた皆様、芸能や芸術のステージを覗かせていただいた皆様、ありがとうございました。こども議会の児童の皆さんも本当に素晴らしいです。飯館村の人の魅力が、ぎゅぎゅっと詰まった3月号になりました。（星）



オムニバスドラマ 風のふく島

福島12市町村に住む移住者の実話を元に制作された12本のオムニバスドラマが3月1日から福島テレビで放送されています。

飯館村を舞台にしたドラマは全12回の6回目で、3月15日（土）午後1時30分から放送されます。元飯館村地域おこし協力隊でキャンドル作家の大槻美友さんをモデルにした物語。主演は北乃きいさんで、大槻さんが制作活動を行ってきた「工房マートル」で撮影されたシーンもあります。この機会にぜひご覧ください。同番組はテレビ東京で2月に先行放送され、民放公式テレビ配信サービス「TVer」でも配信されています。